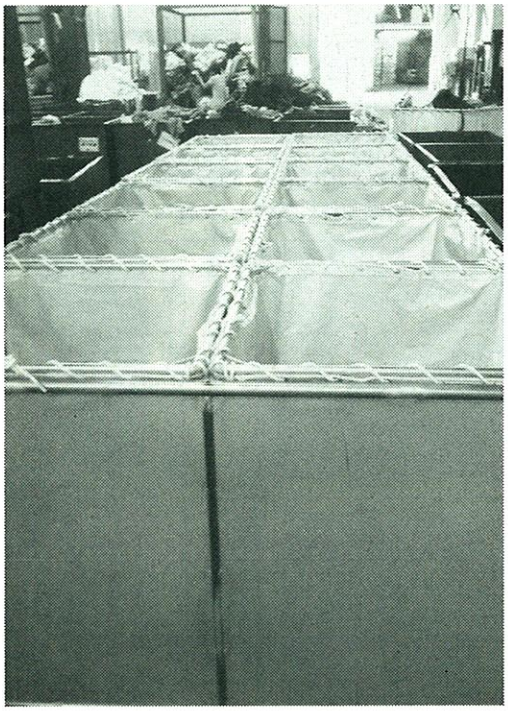
仕分け作業の効率が大幅に向上

笑和（福岡県みやま市）

リサイクル洋服運搬用「モッコ」を製作

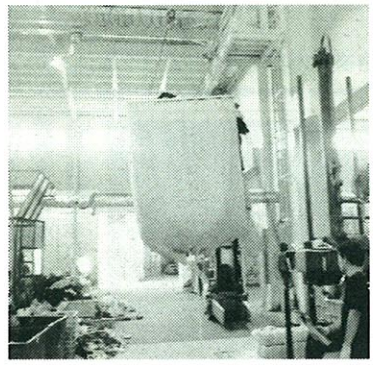


洋服リサイクル会社向けの「モッコ」

㈱笑和（福岡県みやま市瀬高町、牧嶋康雄社長）は、福岡県大川市の洋服リサイクル会社の仕分け用に運搬用吊り荷資材「モッコ」を製作、納入した。

「モッコ」とは、元は人力による土石運搬に用いる網袋のこと。現在は細かいものを運ぶためにポリエステルシートを使った「布モッコ」や石や鉄くずなど重量のモノを運ぶ「ワイヤーモッコ」などその製品はバラエティに富む。同社は、直営の古着屋20店舗を持ち、同工場内で全国から集められた中古の洋服を作業員が状態を判別、それを同じ状態のモノ毎に選別し、状態の良いものは自社店舗へ、状態の悪いものは東南アジアやアフリカに輸出する。工場では、その仕分けしたものを1ヶ所に集めるために「モッコ」を使用することになった。

導入したモッコは1列6×26の156個。モッコ自体の作り方、縫製などは難しくないが、目的や中に入れるモノ、運用方法によってちょっとした工夫を入れなければならず、既製品では対応しにくい部分があるのだという。「同工場内での仕分け作業の際、洋服を少し離れたところから投げ入れるので開口部の大きさは小さすぎると入れにくいし、大きすぎると運びにくくなり何度かテストを行い、最終的には85センチ四方にしました。また洋服を入れていくとひとつのモッコの重量は100キロを超え、使い方も荒っぽいのでフレームには強度を持たせました。そのほか入れた洋服を取り出しやすいようにワンタッチで下の紐をほどく工夫を考えました」（牧嶋社長）。



取り出しやすいように工夫も

ユーザーからは作業効率が上がったと喜ばれ、さらに追加の「モッコ」導入を検討されているという。牧嶋社長は「工場系にはテント屋ができる仕事が結構あります。こうした時代ですからそれらをひとつずつ拾い上げていく努力が必要でしょう」と語っている。

産繊新聞

発行所
有限会社　産繊新聞社
〒567-0827
茨木市稲葉町7—34
TEL　072（632）2550
FAX　072（633）3155
編集兼発行人　首藤　充

テイジン®テント
シャガール®
ラッシュ®
ストライク™
〈代理店〉
大一帆布(株)
大阪☎06（6552）0631
東京☎03（3834）2891

新年業界行事

日膜協　賀詞交歓会
1月13日（金）

社団法人日本膜構造協会の平成24年度新春賀詞交歓会が、平成24年1月13日（金）午後4時30分より、名古屋クラウンホテル（名古屋市中区栄1—8—33）において開催される。

午後4時30分：式典
午後5時15分：懇親会

東天協・東テンエ
合同新年会
1月18日（水）

東京天幕雨覆商工協同組合と東京都テントシート工業組合の合同新年会が1月18日（水）午後4時よりホテル銀座ラフィナートで開催される。

千思万考

●リサイクルカバンに思う

この間、東京の友人からカバンのことで電話があった。ネットで買った使用済みトラック幌生地を再利用するスイス・F社のカバンを修理に出したいのだがどうすればよいのかというアフターメンテの相談だ。実はF社は10月、東京・銀座に旗艦店をオープンしていて、「そこに持っていけば修理をしてもらえるよ」と教えたところ、喜んで次の日持っていった。

最近、リサイクルバッグがブームだ。F社もそうだし、タイヤチューブをリサイクルしたもの、ヨットの帆をリサイクルしたもの、なかには消防用ホースをリサイクルしたものもある。ネットでの販売が多いが、ちょっと「リサイクル」という言葉が独り歩きしすぎているように思う。

カバンはやはり使う人の立場でデザインされていなければいけない。「見た目」だけでなく、持ったときの重さも重要な部分だし、メンテの仕組み作りも必要だ。もし、メンテができないのであれば、単にゴミとなるモノを売りつけたことになる。「リサイクル」とは「再利用」という意味だが、製品にする以上「命」を吹き込まなければならない。話題性だけを狙って作られたものは「命」が根付いていないので直ぐに枯れていく運命だ。

私ははじめからカバンという「宿命」を背負って生まれた製品のほうが好きだ。縫製だってしっかりしているし、何より使う人の立場にたって物ができている。京都のI社のカバンは典型的。「命」が満ち溢れている。今、ちょっとショルダーの部分と底のほうが病気気味なので、明日でも修理に持っていこうか…。

（文責・ラスカル）